

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan)

平成 25 年度 地域ネットワーク形成支援事業

北海道地区 聴覚障害学生エンパワメント研修会 ミニ報告書

2014 年 2 月 14 日・15 日

会場：NTT 北海道セミナーセンタ

主 催 札幌学院大学

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan)

協力大学 北海道大学・北星学園大学・北海道情報大学

協力団体 公益社団法人 北海道ろうあ連盟・公益社団法人 札幌聴覚障害者協会



もくじ

はじめに、研修会概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・	2
教えて！先輩・・・・・・・・・・・・・・・・	4
参加学生の声、教職員の声・・・・・・・・	5
事後課題・・・・・・・・・・・・・・・・	6
おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・	7

はじめに

2013年6月、道内の四大学（北海道大学、北海道情報大学、北星学園大学、札幌学院大学）の教職員とPEPNet-Japan事務局とで実行委員会を結成致しました。6回の実行委員会を開催し、北海道ろうあ連盟や札幌聴覚障害者協会のご協力も得ながら、知恵を出し合って聴覚障害学生エンパワメント研修会の準備を進め、当日を迎えることができました。皆様のご協力に衷心より感謝致します。

本研修会は、聴覚に障害を抱える学生を対象とする研修プログラムと、教職員を対象とするプログラムで構成されています。参加者は、道内外の聴覚障害学生、道内の大学の教職員や高校の教員、そして、講師やプラシスなどを含め50名を超えています。

参加された皆様それぞれがこの研修会で何かを得て、それを次のステップへの足掛かりとしていただければ嬉しく思います。

今回の経験を、今後の北海道地区の障害学生支援ネットワーク作りに生かしたいと思っています。ご協力の程どうぞよろしくお願い致します。

札幌学院大学 新國三千代

研修会概要

タイトル：聴覚障害学生エンパワメント研修会

日 時：2014年2月14日（金）～15日（土）

会 場：NTT北海道セミナーセンタ（北海道札幌市中央区南22条西7丁目）

参 加 者：53名（学生13名、教職員6名、実行委員7名、その他講師・スタッフ等27名）

主 催：札幌学院大学、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）

協力大学：北海道大学、北星学園大学、北海道情報大学

協力団体：公益社団法人 北海道ろうあ連盟、公益社団法人 札幌聴覚障害者協会

プログラム

2月14日（金）

時間	プログラム	
10:30 ~11:00	オリエンテーション	
11:00 ~12:30	研修① 「一緒に過ごす仲間のことを知ろう！」 講師：大杉豊氏（筑波技術大学） テーマ1：他己紹介 テーマ2：救命ボート	
12:30 ~13:30	昼食休憩	
13:30 ~14:55	研修② 「支援技術を体験し、活用方法を学ぼう！」	
	テーマ1： 支援技術体験 講師：三好茂樹氏 （筑波技術大学）	テーマ2： 支援ニーズ把握 講師：萩原彩子氏 （筑波技術大学）
	A・Bグループ (40分)	C・Dグループ (40分)
	移動 (5分)	
	C・Dグループ (40分)	A・Bグループ (40分)
14:55 ~15:00	移動および休憩	
15:00 ~16:25	研修③「支援の依頼を体験しよう！」	
	テーマ1： 支援の依頼（教員） 講師：河野純大氏 （筑波技術大学）	テーマ2： 協力依頼（会議場面） 講師：磯田恭子氏 （筑波技術大学）
	A・Bグループ (40分)	C・Dグループ (40分)
	移動 (5分)	
	C・Dグループ (40分)	A・Bグループ (40分)
16:45 ~17:00	移動および休憩	

グループに分かれて初めての活動。ゲームを通してお互いのコミュニケーションを確認し、仲を深めました。誰を救命ボートに乗せるか、議論白熱！



普段は受ける側のノートテイクとパソコンノートテイク。初めて書く・打つ側を体験し、支援を主体的に活用するための知識を身につけました。



特徴の異なるノートテイクを見比べて、自分のニーズを発見。支援学生にどのように伝えれば良いのかを考え、実際に伝えてみました。



毎回スライドを使うが配布はしない先生。自分はこの状況をどうしたいと考え、どのように伝えるか？ロールプレイを通して考えました。



入社後初めての会議、という設定でロールプレイ。自分が参加できる環境をいかに作るか、どのように伝えれば理解が得られるかを、体験を通じて学びました。



時間	プログラム
17:00 ~17:30	研修④「地域のリソースについて学ぼう！」 講師 福島太郎氏（札幌聴覚障害者協会）
17:30 ~19:00	研修⑤「ロールモデルから学ぼう！」 講師：米谷美津子氏（小樽ろうあ協会） 山本恵理氏（札幌聴覚障害者協会） 河村明香音氏（札幌聴覚障害者協会）
19:00 ~20:30	夕食・交流会

聴覚障害者が活用できる社会のリソース（資源）を具体的に学び、自分から積極的にこれらにアクセスすることの大切さを学びました。



聴覚障害を持つ社会人はどのように会社でサバイブしてきたのか？ 普段なかなか出会う機会のないロールモデルに出会い、疑問や不安を直接尋ねました。

2月15日（土）

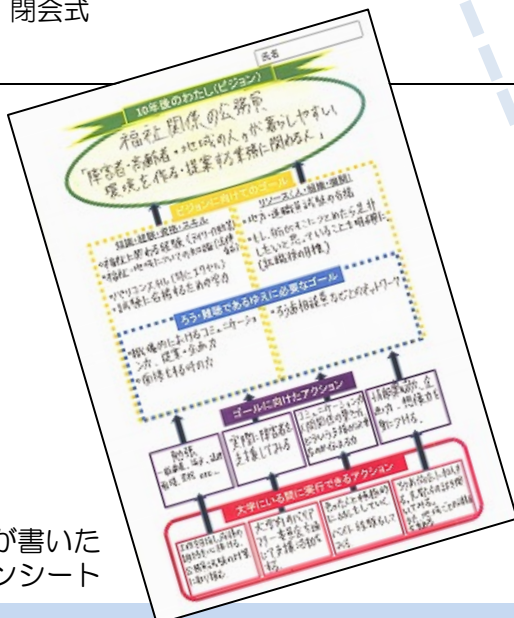
時間	プログラム
9:30 ~11:30	研修⑥「アクションプランを作成しよう！」 講師：橋本由美氏（旭川ろうあ協会） 大杉豊氏（筑波技術大学）
11:30 ~12:30	昼食休憩
12:30 ~14:00	研修⑦「アクションプランを発表しよう！」
14:00 ~14:30	閉会式

お楽しみの夕食。参加学生同士はもちろん、講師やブラス（グループのお兄さん・お姉さん役の社会人）とざっくばらんに話をすることができました。



10年後の自分はどんな自分かな？ そのためには何が必要か？ アクションシートを用い、また、講師やブラスとの会話を通して、具体的に考えました。

みんなの前で発表。言葉にすることで決意が固まり、他学生の質問やアドバイスでさらにやる気が湧いてきました。大学に帰ってからもがんばろう！



学生が書いた
アクションシート

教えて！先輩

地域リソースのこと 福島さん



聴覚障害者にとって役に立つ地域のリソースには、様々なものがあります。例えば、ノートテイクの制度を作りたいとき、相談できるリソースとして、ろう学生懇談会があります。就職活動をする上では、ハローワークが役に立つでしょう。卒業後、生活する上で困ったことがあれば、ろうあ者相談員に相談することができます。聴覚障害者に関する情報は、地域の情報提供施設や聴覚障害者協会に収集されています。

学生時代も、社会に出てからも、聞こえないことで壁にぶつかることはあると思います。聞こえないから仕方ないと思うのではなく、どうしたいのかを自分の心に問いかけ、自ら調べ、他の人に相談し、行動することが大切です。地域のリソースに、臆せずに飛び込んで行きましょう！

現在、銀行の事務センターで働いています。勤続15年になりますが、実はその前は写植の業界で15年間働いていました。

銀行の採用面接の際に、パソコンはできるか問われました。「少しは」と答えたので採用されたのだと思うのですが、実際は学んだことがなかったので大変でした。とにかく周りはずいスピードで業務をこなしていく。当初の私は追いつかず、もっともっとパソコンの知識と技術を磨かなければと思い、努力しました。苦労しましたが、今思うととても良い経験でした。

諦めず努力すること 米谷さん



聴覚障害者として 働くこと 山本さん



大学を卒業し、今の会社に就職して20年になります。仕事の内容は本、雑誌などのデザイン編集、「DTP」と言います。

新しい部署を作るの方が大変で、聞こえないことで悩む余裕が全くありませんでした。それが逆に良かったのかも知れません。

コミュニケーションの失敗は沢山あります。ですがこの失敗は聞こえる方も同じです。私も周りも試行錯誤しながらベストな方法を一緒に考えていきました。こうすれば私は出来ると意見を言えるように仕事での実力を身につけ、そして私をフォローしてくれる様、人間関係も地道に築いてきました。

仕事の話の時は必ずその場でメモを取り、そのメモを相手に見せて確認しながら話を進めています。聞こえないという意味で本当に大変なことは、社会の中にあります。だから私は、強くならなくてははいけません。みなさんも、悩んだりつまずいたりしながら、少しずつ強くなってくださいね。

私は社会人になる前、耳が聞こえないので、他のみなさんに迷惑をかけない仕事ができたらと単純に考えていました。でも、いざ働いてみると、迷惑をかけないことが最も重要なわけではないことがわかりました。

強く言えることは、学生と社会人は違うということです。学生は受身でいられますが、社会人は自ら貢献するつもりでないと仕事がもらえません。自分から動かないと、周りの人に認めてもらえないということです。

学生と社会人で 違うこと 河村さん



参加学生の声

大学や職場でのロールプレイでは、言われた時の相手の気持ちを知る経験ができてよかった。



自分が何をしたいのかがわかった。これからどんどん挑戦していきたいと思えるようになった。

以前は手話が読み取れなくてもうなずいてしまっていたが、聞き返すことができるようになった。

自分を見つめ直す良い機会となった。今後の大学生活をどうするか考えられるようになった。



ロールモデルの話を聞くことで、自分の将来像を具体的に見いだすことができた。

社会に出てから自分の障害をどのように説明するか、体験を通してイメージすることができた。

教職員の声

はじめは不安げだった学生たち。最後のアクションプラン発表ではみんな自信を持った顔つきに変わっていた。

普段学内では見ることができなかった学生の言動に触れ、私たちの支援のあり方を考えさせられた。



社会に対し漠然とした不安を抱えていた学生が、ロールモデルの話を聞くことで、社会人の厳しさと格好良さに惹かれるようになった。

消極的だった学生が、自分から「あの資格をとりたい」「積極的にコミュニケーションを取りたい」と発言していて、成長を感じた。

自分自身の学びにもつながり、教員として大学でどのようなサポートをすることが彼らの将来に役立つかについて貴重な示唆を得た。

2日間のプログラムを通して、多くの仲間の中で自分を振り返り、考えを深めることができたようだった。



事後課題

研修会終了後、学生には事後課題として以下のような課題を課しました。

- これまで大学で受けてきた支援を振り返り、嬉しかったことを整理して教職員に伝えましょう。
- アクションシートを用いて、教職員に自分のビジョン・ゴール・アクションを伝えましょう。
- 今後大学で何がしたいのか、何ができるのかを教職員とともに考えましょう。

事後課題を受けて、学生と教職員でどのようなやりとりがなされたのでしょうか？その例をご紹介します。

大学生活が始まったばかりのころは不安だったのですが、オリエンテーションで通訳を受けて、健聴学生とコミュニケーションを取ることができたのがとてもうれしかったです。日々支援を受けて、健聴学生と共に学べることもうれしいです。

学生

職員

そう言ってもらえると、コーディネーターの私もうれしいわ。これからはがんばらなくちゃ！その気持ちを、支援学生にも伝えられるといいね。将来は、小学校の先生になりたいのね。

「あの先生に出会えてよかった」と思ってもらえるような先生になりたいです。職場の人とも良い人間関係を築きたいと思っています。このビジョンを達成するために、人前でも自信をもって話せるようになることを目標に設定しました。模擬授業の経験をたくさん積みたいです。

学生

教員

ここまではっきりビジョンを持っているのは、すばらしいわね！実際に小学生の授業を見られると、参考になりそうね。小学生と関わるボランティアにも、ぜひチャレンジしてみて。あと、普段から他者を気遣うことができているから、もっと「自分はこうしたい」「自分はこう考えている」って言えるようになるといいわね。がんばって！

はい！がんばります！
これからもよろしくお願いします！

学生



おわりに

北海道の高等教育機関では初めての聴覚障害学生エンパワメント研修会は、多くの方々のご協力を得たいへん充実したものとなりました。モデルとなる先輩社会人との出会い、大学を超えた学生同士のつながり、自分の未来を描くこと。2日間のプログラムをとおして学生たちの表情の輝きを間近で見ることができました。この経験はきっとこれからも学生たちの中で生き続けるでしょう。

教職員もまた、聴覚障害学生の持っている力と可能性を再認識し、これまでの支援のあり方を問い直す良い機会となりました。聴覚障害学生が自分の可能性に気づき、思う存分に力を発揮し、そして数年後には後輩の良き社会人モデルになれるような、そういう支援を考えていきたいです。研修会后に北海道地区では、大学間遠隔情報保障や、地域リソースを活用した就労支援の模索など、新たな取り組みも始まっています。

ここが出発点！エンパワメントされた力を持ちよって、学生・教職員ともにアイデアを実行に移していきましょう。

札幌学院大学 藤野友紀

謝辞

本研修会開催にあたっては、公益社団法人北海道ろうあ連盟・公益社団法人札幌聴覚障害者協会にご協力いただきました。両団体の金原様、樋口様、講師をお引き受けくださった皆様、プラシスとして学生たちを導き、良きお兄さん・お姉さんとなってくださった北川朋恵様、佐藤尚行様、森恵子様、京野大樹様に、この場を借りて御礼申し上げます。



聴覚障害学生エンパワメント研修会 実行委員会

札幌学院大学 教授 新國三千代
札幌学院大学 准教授 藤野友紀
札幌学院大学 教務課学習支援係 井上寿枝
北海道大学 准教授 松田康子
北海道大学 学務部学生支援課 竹下欣吾
北海道情報大学 教授 加藤喜久子
北海道情報大学 学生サポートセンター 媚山敏文
北星学園大学 教授 木下武徳

筑波技術大学
障害者高等教育研究支援センター
准教授 三好茂樹
准教授 大杉 豊
特任助手 萩原彩子
特任助手 磯田恭子
特任研究員 石野麻衣子
技術補佐員 五十嵐依子

北海道地区 聴覚障害学生エンパワメント研修会 ミニ報告書

発行日：2014年8月20日

発行：筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター
〒305-8520 茨城県つくば市天久保4-3-15

執筆：日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク
地域ネットワーク形成支援事業 事業ワーキンググループ
(聴覚障害学生エンパワメント研修会 実行委員会)

編者：石野麻衣子・磯田恭子

※本事業は、筑波技術大学「聴覚障害学生支援・大学間コラボレーションスキーム事業」の活動の一部です。

